

産科病棟での産後2週間健診への取り組み



出産を終え、特に退院してからの1～2週間は、母親にとって『これでいいんだろうか』という不安な気持ちで一杯な時期です。産後1ヶ月健診までの期間は、不安を抱えながら過ごすにはあまりにも長く、またこの時期に起こりやすい産後うつを早期に発見できないというリスクも孕んでいました。

そのため当科では、育児不安の軽減、産後うつの早期発見、母乳育児の確立を目的として、平成19年11月より東6階病棟の助産師による〈産後2週間健診〉を開始し、平成23年の受診者数は373名でした。

対象は当院で出産された特に初産の母親で、父親・祖父母などご家族そろっての受診も可能です。週3回、1日最大4組を対象に、一家族につき約1時間をかけて行っています。尚、医師の診察が必要と思われる場合は、医師に報告し診察につなげます。

健診では、母親の体調や気持ち、育児状況、授乳状況などをお伺いし、赤ちゃんの体重測定を行い、実際に母乳をどれくらい飲んでいるかを確認します。育児のストレスや不安、心配事もじっくりお聞きし、母親の環境や考えを尊重しながら支援しています。助産師の『大変でしたね』『頑張っていますね』『この

ままで大丈夫ですよ』の一言に、母親だけでなくご家族もほっとした表情になります。また、会話や赤ちゃんの扱い方から、ご家族がどの程度育児に参加しているかを知ることができるため、家族全体としてケアする良い機会となっています。



昨年から実施している健診受診者を対象としたアンケートでは、94.4%が健診内容に『満足している』と答え、『育児に自信が持てた』『些細な疑問も解消できた』『ちゃんと大きくなっていて安心した』との感想が多く寄せられました。また、昨年7月からは産後2週間健診料(1回2,100円)として有料化でき、12月までに462,000円の収入となりました。

今後も多くの母親、そしてご家族に楽しい子育ての日々を過ごしていただけるよう〈産後2週間健診〉を通して支援していきたいと思っています。
(東6階病棟 我満 可奈子)